

旭鷲 ボランティア団体交流会

地学協働へ相互理解
得意分野やニーズ意見交換



【旭鷲】旭鷲高等学校門
真義弘校長）は10日、同校
で教職員と独自で設立した
ボランティア組織「旭鷲サ
ポーターズ」による交流会
を開催した。写真。地学
協働のさらなる充実を目指
し、教職員とサポーターズ
のメンバーを合わせて約30
人が参加。互いの得意分野
や学校側のニーズについて
活発に意見を交わし、相互
理解を深めた。

同団体は、同校の
教育活動などを支援
する地域住民らを支
援するため、前年度から
独自に発足したボラ
ンティア組織。現
在、会員数は50人を
超え、近隣の町内会
員や大学生、同窓
生、手話サークルの
関係者など幅広い層
が所属している。

登録に当たって
は、参加申請後に門
真校長による約50分の講義
と手話体験からなる「受講
者講習」の受講（地域参観
日など学校行事への参加に
よる免除措置あり）を経
て、ボランティア活動資格
を示す登録証が交付される
仕組みになっている。

これまで同団体は、絵本
の読み聞かせや文化祭（学
習発表会）、スキー学習の
補助などで活動実績を重ね
てきた。しかし、門真校長
は「学校が求める支援と、
地域（サポーター）が持
つ力や求める役割をより高
いレベルで一致させ、地学
協働を充実させたい」と考
え、今回の交流会を初めて
企画した。

当日は、はじめに門真校
長があいさつに立ち、募集
開始から1年が経過し、現
在の会員数が54人に達した
ことや、実質的に活動可能
な登録証の所持者が40人に
達するまで増加した現状を
報告し、地域からの温かい
支援に深く感謝の意を表し
た。

その上で「これまでは、
互いに相手がどのような人
で、何を求めているのか
完全には見えていなかった。
きょうは積極的に「自分
己開示」をしていたが、
互いの得意なことや学校が
求めていることを分かり合
う機会にしてほしい」と呼
びかけた。

交流会の前半プログラム
では、参加者がグループに
分かれて和やかなアイスブ
レークを実施。自己紹介に
加え、それぞれの好きなこ
とや、地元の飲食店、身近
な公園、お気に入りのアニ
メキャラクター、スポーツ
選手といった地元のイチオ
シスポットやマイアームを
テーマに懇談した。手話を
交え、笑顔が絶えないアツ
トホムな雰囲気の中で親
交を深めた。

後半のメインプログラム
では、一歩踏み込んだ意見
交換が行われた。参加者サ
ポーター側からは「ミシ
ンを使った裁縫が得意」
「手話での絵本の読み聞か
せができる」「農業に関す
る専門的な知識がある」と
いった自身の強みや得意分
野が次々と紹介された。

これに対し、学校側の教
職員からは「スキー学習時
における安全な山づくりや
滑走指導の補助」「学習発
表会で使用する衣装づくり
のサポート」など、授業や
学校行事の現場で実際に人
手を必要としている具体的
な要望が提示され、表現に
向けて熱心な対話が交わさ
れた。

剣淵町から参加した剣淵
高校2年の内野風歌さんは
「周りの皆さんが優しく手
話や旭鷲のことを教えて
くれてとてもうれしかっ
た。もうあの方と交流し
たくて参加したので、今後
も活動が続けてもっとたく
さん話してみたい」と充実
した表情で感想を話した。

門真校長は「きょう、交
流会の中で出された素晴ら
しいアイデアやサポーター
の皆さんの強みを教職員全
体でしっかりと共有してい
く。今後、具体的にどのよ
うな連携が可能なかを検
討する一助とし、地学協働
をより一層充実させていき
たい」とコメントし、今後
の地域連携の発展に強い期
待を寄せた。

「北海道通信 日刊教育版」（令和8年7月15日付 7面掲載）

交流会当日は、平日の 15:30 という時間帯にもかかわらず、多くの皆様に御参加いただき、本当に感謝しております。また、当日は参加できなかったけれど、参加したかったという方の声も多く聞かせていただきました。ありがとうございます。

今後、皆様の熱い思いに支えられて、校区である上川、留萌、宗谷、オホーツクや空知の一部にお住まいの難聴で困り感のある幼児児童生徒の教育活動を充実させていきたいと考えています。

今後とも、本校の教育活動に対しまして、引き続き御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

（文責 門真）

旭鷲 ボランティア団体交流会

地学協働へ相互理解
得意分野やニーズ意見交換



【旭鷲】旭鷲高等学校門
真義弘校長）は10日、同校
で教職員と独自で設立した
ボランティア組織「旭鷲サ
ポーターズ」による交流会
を開催した。地学
協働のさらなる充実を目指
し、教職員とサポーターズ
のメンバーを合わせて約30
人が参加。互いの得意分野
や学校側のニーズについて
活発に意見を交わし、相互
理解を深めた。

同団体は、同校の
教育活動などを支援
する地域住民らを支
援するため、前年度から
独自に発足したボラ
ンティア組織。現
在、会員数は50人を
超え、近隣の町内会
員や大学生、同窓
生、手話サークルの
関係者など幅広い層
が所属している。

登録に当たって
は、参加申請後に門
真校長による約50分の講義
と手話体験からなる「受講
者講習」の受講（地域参観
日など学校行事への参加に
よる免除措置あり）を経
て、ボランティア活動資格
を示す登録証が交付される
仕組みになっている。

これまで同団体は、絵本
の読み聞かせや文化祭（学
習発表会）、スキー学習の
補助などで活動実績を重ね
てきた。しかし、門真校長
は「学校が求める支援と、
地域（サポーター）が持
つ力や求める役割をより高
いレベルで一致させ、地学
協働を充実させたい」と考
え、今回の交流会を初めて
企画した。

当日は、はじめに門真校
長があいさつに立ち、募集
開始から1年が経過し、現
在の会員数が54人に達した
ことや、実質的に活動可能
な登録証の所持者が40人に
達するまで増加した現状を
報告し、地域からの温かい
支援に深く感謝の意を表し
た。

その上で「これまでは、
互いに相手がどのような人
で、何を求めているのか
完全には見えていなかった。
きょうは積極的に「自
己開示」をしていたが、
互いの得意なことや学校が
求めていることを分かり合
う機会にしてほしい」と呼
びかけた。

交流会の前半プログラム
では、参加者がグループに
分かれて和やかなアイスブ
レークを実施。自己紹介に
加え、それぞれの好きなこ
とや、地元の飲食店、身近
な公園、お気に入りのアニ
メキャラクター、スポーツ
選手といった地元のイチオ
シスポットやマイアームを
テーマに懇談した。手話を
交え、笑顔が絶えないアツ
トホムな雰囲気の中で親
交を深めた。

後半のメインプログラム
では、一歩踏み込んだ意見
交換が行われた。参加者サ
ポーター側からは「ミシ
ンを使った裁縫が得意」
「手話での絵本の読み聞か
せができる」「農業に関す
る専門的な知識がある」と
いった自身の強みや得意分
野が次々と紹介された。

これに対し、学校側の教
職員からは「スキー学習時
における安全な山づくりや
滑走指導の補助」「学習発
表会で使用する衣装づくり
のサポート」など、授業や
学校行事の現場で実際に人
手を必要としている具体的
な要望が提示され、表現に
向けて熱心な対話が交わさ
れた。

剣淵町から参加した剣淵
高校2年の内野風歌さんは
「周りの皆さんが優しく手
話や旭鷲のことを教えて
くれてとてもうれしかっ
た。もうあの方と交流し
たくて参加したので、今後
も活動を続けてもっとたく
さん話してみたい」と充実
した表情で感想を話した。

門真校長は「きょう、交
流会の中で出された素晴らしいアイデアやサポーター
の皆さんの強みを教職員全
体でしっかりと共有してい
く。今後、具体的にどのよ
うな連携が可能なかを検
討する一助とし、地学協働
をより一層充実させていき
たい」とコメントし、今後
の地域連携の発展に強い期
待を寄せた。

「北海道通信 日刊教育版」（令和8年7月15日付 7面掲載）

交流会当日は、平日の 15:30 という時間帯にもかかわらず、多くの皆様に御参加いただき、本当に感謝しております。また、当日は参加できなかったけれど、参加したかったという方の声も多く聞かせていただきました。ありがとうございます。

今後、皆様の熱い思いに支えられて、校区である上川、留萌、宗谷、オホーツクや空知の一部にお住まいの難聴で困り感のある幼児児童生徒の教育活動を充実させていきたいと考えています。

今後とも、本校の教育活動に対しまして、引き続き御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

（文責 門真）